

(10) 四 国



四国地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はこのところサービス支出を中心に弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す（  は上方に変更、  は下方に変更）。

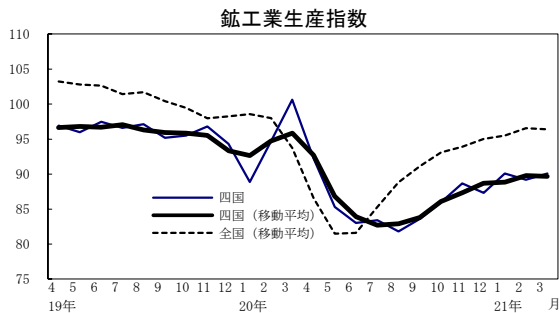
前回からの主要変更点

	前回（令和3年3月）	今回（令和3年6月）	
景況判断	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している	↓
鉱工業生産	持ち直しの動きがみられる	持ち直している	↑
個人消費	このところ弱含んでいる	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている	↓

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直している。

1－3月期の鉱工業生産は、電気機械が増加したこと、輸送機械が増加したこと等により、前期比2.9%増となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10-12 月期	1-3 月期	1月	2月	3月
化学・石油石炭	22.1	2.5	2.6	1.5	0.9	▲2.9
食料品	13.8	4.9	▲4.9	▲0.8	▲0.6	3.4
電気機械	12.8	5.9	10.3	3.9	6.7	2.6
汎用・生産用機械	11.3	5.9	0.9	7.0	▲4.9	7.9
輸送機械	7.9	18.9	10.4	0.7	▲9.0	5.0
鉱工業	100.0	5.3	2.9	3.2	▲1.0	1.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

2. 1－3月期、3月は速報値。

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均。  
直近月は2か月平均。

## 2. 個人消費の動向

個人消費はこのところサービス支出を中心に弱い動きとなっている。

### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

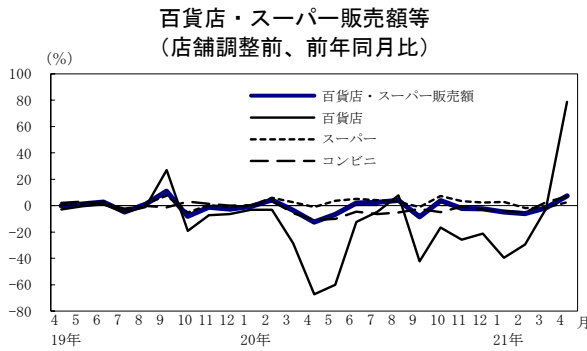
1-3月期は前期比1.3%減となった。月別にみると、1月は前月比1.6%減、2月は同1.2%増、3月は同0.8%減となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、1-3月期は前年同期比4.1%減となった。月別にみると、1月は前年同月比4.9%減、2月は同6.0%減、3月は同1.6%減となった。

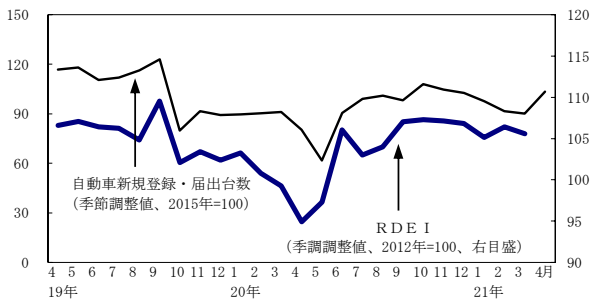
百貨店は、1-3月期は前年同期比25.5%減となった。

スーパーは、1-3月期は同0.1%減となった。



	2021年1-3月	2021年1月	2月	3月	4月
RDEI (消費*1)	▲1.3	▲1.6	1.2	▲0.8	—
百貨店・スーパー(*2)	▲4.1	▲4.9	▲6.0	▲1.6	7.4
百貨店(*2)	▲25.5	▲39.5	▲29.5	▲2.4	78.8
スーパー(*2)	▲0.1	2.9	▲1.8	▲1.5	2.5
コンビニ(*2)	▲2.2	▲4.1	▲5.2	2.6	7.0
乗用車(*3)	2.4	6.7	2.0	0.0	28.3
(季節調整値) (*3)	▲11.4	▲4.9	▲6.3	▲1.6	14.8

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整前前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

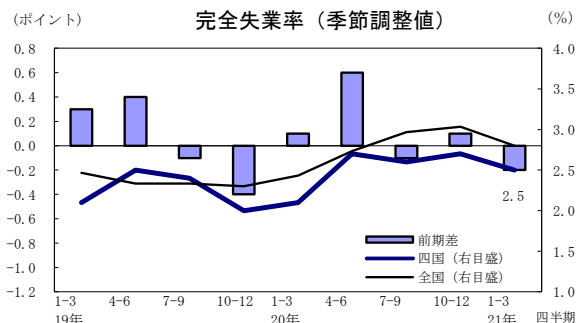
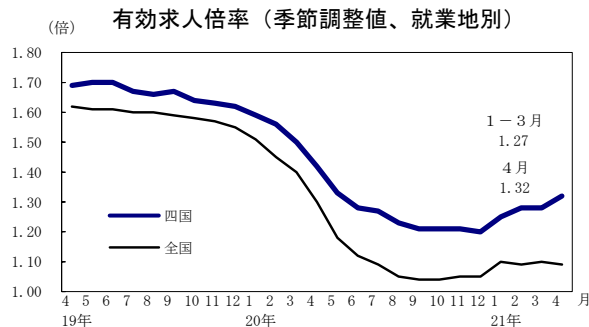
2021年4月は速報値。

3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))

## 3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年4月調査) 景気判断理由の概要

10. 四国

( 良、 やや良、 不変、 やや悪、 ×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	
×			・観光業界においては、Go To Travelキャンペーン再開のめどが全く立たず、観光支援事業においても先行きが見通せない状況である。都市部での緊急事態宣言の発出により、店頭への来店及びオンラインによる予約も減少し、更にキャンセルが続出している(旅行代理店)。 ・最近の新型コロナウイルス感染者数の急増を受けて、人出が急激に落ち込んでいる(その他小売[ショッピングセンター])。
企業 動向 関連			・依然として民間工事や公共事業の受注量が減少している(建設業)。
			・まん延防止等重点措置の適用と緊急事態宣言の発出によって、受注量が急速に減少している。特に都市部の小売店とショッピングモール内の小売店は時短営業や休業する店が増加している(繊維工業)。 ・海外向け、特に中国向けの原料の輸出が好調である。国内向けの出荷量については横ばいの状態である(輸送業)。
雇用 関連		・一部の業種で改善はみられるものの、サービス業関係の仕事の求人が全くない状況で、全体では悪化傾向にある(人材派遣会社)。	
		・繁華街で新型コロナウイルスのクラスターが発生し、その影響で人の動きが止まり、年度末の需要がさほど伸びなかった(職業安定所)。	
その他の特徴 コメント			：新型コロナウイルスの感染再拡大により、巣籠り需要が再拡大しており、その恩恵を受けている状況である(スーパー)。 ×：当地域では、新型コロナウイルスの感染者数が減少し、規制も徐々に緩和されつつあったところにクラスターが発生し、前年と同じ状況が繰り返されている。引き続き我慢が必要であると感じる(一般レストラン)。
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計 動向 関連		・しばらく外出自粛が続き自宅内の環境整備に金を掛ける人が増えると予想している(家電量販店)。
			・感染対策期への移行に伴い、飲食店などでは時短営業を余儀なくされ、その余波が関係業種にも多大な影響を与えることが予測される(観光遊園地)。
	企業 動向 関連		・新型コロナウイルスの影響や原油とナフサ価格の変動で、不安定な時期が継続すると予想する(化学工業)。
			・依然として厳しい状況であるが、一部地域では政府による経済対策としてのインフラ投資及び再生可能エネルギー関連プロジェクト等により、客の投資マインドに回復の動きがみられる(一般機械器具製造業)。
雇用 関連		・新型コロナウイルスの感染が収束しない限り、景気回復は難しいが、収束すれば、消費が上向き、落ち込んでいた前年を上回る可能性はある(新聞社[求人広告])。	
その他の特徴 コメント			：新型コロナウイルス次第だが、これから夏に掛けてのイベント等が、多数中止になっており、観光客も出控えている。また、地元の客も外出を自粛しており、商店街にとってはまだまだ厳しい状態が続くと思う(商店街)。 ：緊急事態宣言の発出により、外食、観光業における売上の減少が懸念される(食料品製造業)。

(D I) 現状・先行き判断D I (四国) の推移 (季節調整値)

